

## 「英語コミュニケーションⅡ」単元ごとの指導と評価の計画

愛知県立刈谷高等学校

教諭 野々山 淳子

### 1 日時・実施場所

〈省略〉

### 2 学 級

〈省略〉

### 3 学 級 観

〈省略〉

### 4 教 材

〈省略〉

### 5 単元の目標

国や文化による顔文字の違いについての論証文を読み、幅広い知識と教養を身に付けるとともに、他国との文化の違いを認めて尊重し、適切な異文化交流の在り方について話すことを通じて、他者に正確に伝えることができる。

### 6 関係する領域別目標（学年のCAN-DO）

聞くこと	報告や討論などを聞いて、情報や考えなどの概要・要点を的確に捉えることができる。また、専門的な話題においても、未知の語の意味を推測したり、背景となる知識を活用したりして聞きながら、概要を理解することができる。
読むこと	説明、評論、物語、随筆、科学教材を読み、情報や考えなどの概要や要点を捉えることができるとともに、文章の構成を理解し、図表との関連なども考えながら読むことができる。
話すこと [発表]	聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えを発表することができる。また、視覚資料を用いたりして、積極的に伝えようとする態度で発表することができる。
書くこと	興味関心のある話題について、段落構成を意識しながら 100 から 150 語程度で書くことができる。また、多様な表現方法を用いることができる。

## 7 単元の評価規準（五つの領域ごとの評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと [発表]	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを述べるために必要な語彙や表現及び説得力のある文章にすることを理解している。</li> <li>自分の考えを述べるために必要な語彙や表現及び構成を用いて話して伝える技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、絵文字の解釈の差異について聞いたり読んだりしたことを活用し、他者の意見を取り入れながら異文化コミュニケーションについて理由とともに自分の意見を口頭で発表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、絵文字の解釈の差異について聞いたり読んだりしたことを活用し、他者の意見を取り入れながら異文化コミュニケーションについて理由とともに自分の意見を口頭で発表しようとしている。</li> </ul>

## 8 パフォーマンステスト

### ○領域

話すこと [発表]

### ○内容

異なる文化的背景をもつ人と良好な人間関係を築くために大切だと思うことを理由とともに話して伝える。

### ○「知識・技能」「思考・判断・表現」についての三つの条件

条件1：異なる文化的背景をもつ人と良好な人間関係を築くために必要なことを明示している。  
 条件2：自分の意見をサポートする理由を二つ以上述べている。  
 条件3：動名詞を3回以上使用している。

### ○採点の基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	条件3を満たした上で、動名詞をすべて正しく使用している。	条件1、2を満たした上で、理由には確かな裏付けがあり説得力をもたせて話して伝えている。	発音、声の大きさ、読む速さが適切であり、目線等で聴衆に配慮して伝えようとしている。また、スライドが効果的に使用されている。
b	条件3を満たしている。	条件1、2を満たして話して伝えている。	多少の聞き取りづらさはあるが、聴衆に配慮して伝えようとしている。スライドが使用されている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

「十分満足できる」状況と判断されるもの： a

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの： b

「努力を要する」状況と判断されるもの： c

9 単元の指導計画 ※網掛けは記録に残す評価の場面。

(聞…聞くこと、読…読むこと、や…話すこと [やり取り]、発…話すこと [発表]、書…書くこと)

時間	ねらい (■)、言語活動 (丸数字)	内容のまとめ					生徒の活動状況を見届ける観点 (【 】)・方法 (○)
		聞	読	や	発	書	
1	<p>■単元の目標を理解する。</p> <p>■単元内容の背景知識を活性化する。</p> <p>①授業者による Oral Introduction を聞き、ふだん絵文字を使うか、実際に使用されている絵文字を見ながら頻繁に使用する絵文字は何か、ペアで意見交換をする。</p> <p>②チャットで使用された絵文字の意味についての会話を聞き、質問に答える。</p> <p>③パート1から4を読み、文脈から新出単語の意味を類推する。同時に発音を確認する。</p> <p>④単元の目標(今後行う活動を基に異文化交流について自分の意見を書き、発表すること)を確認する。</p>		○		○		<p>【知】適切な語句・表現を使用しているか。聞き取れているか。</p> <p>【思】概要や要点を適切に捉えているか。</p> <p>【態】文脈から単語の意味を推測しようとしているか。積極的に自分の意見を伝えようとしているか。</p> <p>○活動の観察</p> <p>○ワークシート</p>
2	<p>■新出単語や新出表現を確認することで知識を深め、本文に関する問題を通して異文化コミュニケーションに対して興味関心をもつ。</p> <p>①文脈を捉えながら、各パートの音声を聞く。その後に True or False 問題に取り組む。</p> <p>②本文を見ながらシャドーイングをする。その後、本文に関する質問に答える。素早く要点をつかむことを意識する。</p> <p>③重要な文法事項や表現について学習し、それらを使って簡単な問題や英作文に取り組む。</p>	○	○			○	<p>【知】動名詞の使い方について理解しているか。</p> <p>【思】文法事項や表現を正しく理解し、適切に使用できているか。</p> <p>【態】ペア活動に積極的に参加しているか。</p> <p>○活動の観察</p> <p>○ワークシート</p>
3	<p>■活動を通して本文の内容理解を深め、質問に対して自分の意見を持ち、発信する力を養う。</p> <p>①各パートのキーワードを抜き出す(STEP1)。</p> <p>②キーワードを用いてペアでパートごとにリテリング活動を行う。一方が要約を口頭で発表し、ペアの生徒は内容についての質</p>				○		<p>【知】適切な表現や語句を理解しているか。</p> <p>【思】文法事項や表現を正しく理解し、適切に使用できているか。</p> <p>【態】ペア活動に積極的に参加しているか。自分の意見を伝えようとしているか。</p>

	<p>問をする(STEP2)。</p> <p>③ペアで教科書の質問について意見交換をしながら異文化コミュニケーションについての理解を深める(STEP3)。</p> <p>④本日の活動の振り返りをする。</p>				○	<p>○活動の観察</p> <p>○ワークシート</p>
4	<p>■異文化コミュニケーションについてグループ内で意見交換し、他者の意見を取り入れ客観的な視点から自分の意見を深める。</p> <p>①異文化コミュニケーションについて自分の考えをまとめ、グループで意見交換を行う(STEP4)。</p> <p>②本文の内容や活動を通して深めた自分の考えをショートエッセイにする(STEP5)。</p> <p>③ショートエッセイをクラスメートと回し読みをしてコメントをもらう(STEP5)。</p> <p>④本日の活動の振り返りをする。</p> <p>⑤課題の指示を受ける。授業で深めた考えやクラスメートの助言を基にプレゼンテーション原稿の草稿となるエッセイライティングに取り組む(STEP6)。</p>				○	<p>【知】論証文の構成や表現について理解しているか。</p> <p>【思】適切な語句、表現を用いて自分の考えを相手に伝えているか。</p> <p>【態】積極的に自分の意見を伝えようとしているか。他者の意見を柔軟に取り入れながらショートエッセイを書こうとしているか。</p> <p>○活動の観察</p> <p>○ワークシート</p>
5	<p>■エッセイをよりよいものにするために、他者からの助言を柔軟に取り入れ、さまざまな視点から見つめ直すことでより説得力のあるエッセイにする。</p> <p>①5人程度のグループになり、順番にエッセイを読み上げて発表する(STEP7)。</p> <p>②聞いている生徒は評価表に発表者の評価とコメントを書く(STEP7)。</p> <p>③ペアになり、エッセイを交換し、文法や内容についてアドバイスをし合う(STEP7)。 (文法) 動名詞の使い方間違いないか、文構造は正しいか、多様な表現を使用しているか、それらは適切に使用されているか(内容) 自分の意見をサポートする理由になっているか、データ等が適切に使用されているか、文章の構成は正しいか</p> <p>④③を、ペアを変えてもう一度繰り返す(STEP7)。</p>				○	<p>【知】動名詞の使い方について理解しているか。</p> <p>【思】動名詞の正しい使い方を説明できるか。論理的な文かどうかを適切に判断できるか。</p> <p>【態】積極的に自分の意見を伝えようとしているか。他者の意見を柔軟に取り入れて再構成しようとしているか。</p> <p>○活動の観察</p> <p>○ワークシート</p>

	<p>⑤クラスメートの評価やコメントとペア活動で得た助言を整理し、自分のエッセイの改善に生かす(STEP8)。</p> <p>⑥プレゼンテーション原稿とスライドの作成についての説明を聞く(STEP9)。</p> <p>⑦本日の活動の振り返りをする。</p>					○	
6	<p>パフォーマンステスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者はスライド4枚程度を使用し、もち時間4分で発表する。</li> <li>・他者のプレゼンテーションを評価する。</li> </ul>			知 思 態			※採点の基準等は「8 パフォーマンステスト」を参照。
後 日	<p>■前回のプレゼンテーション発表を踏まえて、目標達成の状況や活動を振り返る。</p> <p>①ワークシートを用いて、自己評価と振り返りを行う。</p> <p>②発表を終えて、改めてクラスメートからの評価と助言を受ける。</p>						○ワークシート



【STEP 7】 (Group & Pair work) Give a mini presentation and get feedback from classmates.

グループになりエッセイを読み上げて発表しましょう。その後ペアを作りエッセイを交換し、アドバイスをもらいましょう。話し合いながら一緒に考えましょう。

①文法について(動名詞を正しく使っているか、単語や表現方法は適切か、などを辞書や文法書を参考にしながら指摘してみましょう。)

②内容について(段落構成は正しいか、テーマや文献等は理由をサポートするものになっているか、より説得力のあるエッセイにするにはどうしたかよいか。)

Feedback from ( )

①

②

Feedback from ( )

①

②

Feedback from ( )

①

②

【STEP 8】 (Individual work) To improve your essay, what should you change? Take rough notes.

Grammar

Content

【STEP 9】 Write a script for a presentation】 (Individual work) Make a script and ppt slides for your presentation.

クラスメートからの feedback を参考にプレゼンテーション原稿とスライドを作成しましょう。

(TOPIC) あなたは大学生になり、交換留学生として1年間アメリカの大学で勉強することに決まりました。異なる文化的背景をもつ生徒が多く在籍しています。多くの人と良好な人間関係を築くために大切なことと思うことを理由とともに150語程度で述べてください。

- ※条件※
- ①自分の意見を明示し、少なくとも理由のうち一つは文献、データ、アンケート結果などを含むこと(理由は少なくとも二つ以上)
  - ②動名詞を最低3回使用すること(動名詞を使用した箇所にはペンを下線を引くこと)
  - ③難しい表現は使わないこと(読み手、聞き手が理解できる表現を心がける)
  - ④プレゼンテーション用のスライドを作成すること(4枚程度)、発表時間は4分以内

( ) words

【STEP 10】 (Individual work) Practice for a performance test.

\*Content: 客観的視点に立ち説得力のある内容になっていたか?理由は自分の意見をサポートするものになっていたか?

\*Target grammar: 動名詞を正しく使用しているか?

\*Ppt slide: プレゼンテーションに説得力をもたせるものになっていたか?適切な使い方ができていたか?

\*Fluency: 発音、声の大きさ、脱臼の速さは適切であったか?

\*Attitude: 原稿を見ずに聴衆を意識して発表することができたか?視線や身振り手振りを意識して聴衆に訴えかけることができたか?

CLASS ( ) NO.( ) NAME ( )

## (Self-Evaluation Sheet)

**[Your Goal]** Set your goal before working on this activity.

**1-min. Reflection** How well did you do in each activity? Evaluate yourself and write some reflection.

\*Each step corresponds to the ones on Activity Worksheet.

**[STEP 1]** (Individual work) Read through the text and choose key words.

1 (Poor)	2	3	4	5 (Great)
*Reflection				

**[STEP 2]** (Pair work) Retell Part1~4, using the key words.

1 (Poor)	2	3	4	5 (Great)
*Reflection				

**[STEP 3]** (Pair work) Discuss the following questions.

1 (Poor)	2	3	4	5 (Great)
*Reflection				

**[STEP 4]** (Group work) Discuss a question with classmates.

1 (Poor)	2	3	4	5 (Great)
*Reflection				

**[STEP 5]** (Individual work) Write a short essay about communicating with people from different cultures.

1 (Poor)	2	3	4	5 (Great)
*Reflection				

**[STEP 6]** (Individual work) Write an essay about a topic.

1 (Poor)	2	3	4	5 (Great)
*Reflection				

**[STEP 7]** (Group & Pair work) Give a mini presentation and get feedback from classmates.

1 (Poor)	2	3	4	5 (Great)
*Reflection				

**[STEP 8]** (Individual work) To improve your essay, what should you change?

1 (Poor)	2	3	4	5 (Great)
*Reflection				

**[STEP 9]** (Individual work) Make a script and ppt slides for your presentation.

1 (Poor)	2	3	4	5 (Great)
*Reflection				

**[STEP 10]** (Individual work) Practice for a performance test.

1 (Poor)	2	3	4	5 (Great)
*Reflection				

### 【Performance test】

Content	1 (Poor)	2	3	4	5 (Great)
Target grammar	1 (Poor)	2	3	4	5 (Great)
Ppt slide	1 (Poor)	2	3	4	5 (Great)
Fluency	1 (Poor)	2	3	4	5 (Great)
Attitude	1 (Poor)	2	3	4	5 (Great)

\*Content: 客観的視点に立ち読者の立場の内容になるか?理由は自分の意見をサポートするものになっていたか。

\*Target grammar: 動名詞を正しく使用しているか。

\*Ppt slide: プレゼンテーションに説得力をもたせるものになっていたか?適時適切な使い方ができていたか。

\*Fluency: 発音、声の大きさ、読む速さは適切であったか。

\*Attitude: 原稿を見ずに聴衆を意識して発表することができたか?目線や身振り手振りを意識して聴衆に訴えかけることができたか。

○自分で設定した目標は達成できましたか。

○今回の発表で工夫したところはどこですか。

○今回の発表における反省点は何かですか。

○パフォーマンステストにしっかりと取り組みむことができましたか。次回への改善点は何かですか。

### 【Evaluation from Teacher】

GRADE	C	B	A	
思考・判断・表現	Content	自分の意見を明示し、二つ以上の理由がある。理由に際立って説得力はないが、理解できる。	自分の意見を明示し、二つ以上の理由がある。さらに理由には裏付けがあり説得力がある。	自分の意見を明示し、二つ以上理由がある。二つ以上理由には裏付けがあり説得力がある。
	Target grammar	動名詞を3回以上使用していない。またはすべてが正しく使われていない。	動名詞を3回以上使用している。使い方に間違いが見られる。	動名詞を3回以上使用している。すべてが正しい用法で使われている。
主体的に学習に取り組む態度	Ppt slide	スライドがない。または全く効果的に使用されていない。	自分の意見や理由をサポートし視覚的效果を生んでいる。	効果的に使用されており、自分の意見や理由を視覚的にサポートし、聴衆を引くものである。
	Fluency	発音、声の大きさ、読む速さのうち複数かが不十分であり、聞き取れないことが多い。	発音、声の大きさ、読む速さの聞き取りづらさがある。	発音、声の大きさ、読む速さが適切であり、聴衆を意識している。
	Attitude	原稿を見たまき発表している。目線や身振り手振りを意識していない。	原稿を見ずに発表し、目線や身振り手振りなどを活用し、効果的に聴衆に訴えかけている。	原稿を見ずに発表し、目線や身振り手振りなどを活用し、効果的に聴衆に訴えかけている。



## 実践報告

### 1 単元構想

単元構想を作成するに当たり、最初にパフォーマンステストと評価規準を設定した。メールやSNSで使用する顔文字や絵文字について異文化間での認識の差をデータとともに論拠を示す論証文を読み、パフォーマンステストでは対面でのコミュニケーションにおける異文化間の差異を考慮した上で何を重視したらよいかを題材とした。STEPと称して段階的にアクティビティに取り組む計画を立て、最後のパフォーマンステストまでの道筋を明確にした。また、パフォーマンステストに到達するまでに個人、ペア、グループでの活動をバランスよく取り入れることにより、生徒本人の視点だけでなく、他者視点からの客観的な意見や指摘に耳を傾けることで学習活動に広がりが出るように工夫した。パフォーマンステストまでにどのような活動をどのような方法で行い、そして最終的にどのように評価されるのかを最初にワークシートで生徒が把握することで、最終的な目標に到達する姿を想像しやすくした。

### 2 実践と考察

STEP1から5はSTEP6で行うエッセイライティングへの段階的な活動として設定した。本文の内容について理解を深め、グループディスカッションでクラスメートと意見交換を行い、自分とは違う立場の意見を受け入れることで自分の意見を裏付ける理由に説得力をもたせるように促した。ディスカッションは4人程度のグループで行い、そこで出された意見をクラス全体で共有した。異文化コミュニケーションにおいて注意することについて、「アイコンタクトやボディランゲージを意識する」「分かりやすい表現を使う」などの意見が多く見られた。その他に「日本人は表情が乏しいのでリアクションを意識的に大きくする」という意見もあった。ディスカッションの後に同じ題材でショートエッセイライティングを行った。ディスカッションでの意見交換が参考になり、生徒は早いペースで70語程度のエッセイを書くことができた。ディスカッションからショートエッセイライティングの流れは自分の意見を整理してまとめるのに効果的であり、さまざまな場面で応用できる汎用性の高い活動であると感じた。

STEP6のエッセイライティングは、目的・場面・状況をより具体的に設定した。今回学習した論証文を参考にデータ等を用いて論拠を示すこと、動名詞を使用することなどの三つの条件を提示したことで生徒はそれらを意識して書くことができていた。しかしながら、「大学生」「交換留学生」「1年間」「アメリカ」などのキーワードを引き合いに出して多様な意見が出てくることを期待したが、それ以前のSTEPの流れから一般的な場面に落とし込んで展開しているエッセイがほとんどであり、意見の広がりが見られなかった。改めてインプットからアウトプットまでの一連の流れを工夫することが重要であると感じた。

STEP7では発表前の練習を兼ねて、書いてきたエッセイをミニプレゼンテーションの形式を使ってグループ内で発表した。声の大きさ、発音や読む速さに注意して発表するよう指導をした。その後、ペアになり、エッセイを交換してお互いに助言し合う時間を設けた。「この that は何を指しているのか」「理由が弱いので、もう少し根拠をもたせたらどうか」「同じ表現が繰り返されている」など、積極的に意見交換する姿が見られた。振り返りでも「アドバイスをたくさん書けたし、これからエッセイを書くのに助かるメッセージをもらえた」「自分が発表する内容は具体性があるものなのか確認することができたので自信をもって発表することができた」「アドバイスのおかげで自分には『伝える』意識が低かったこ

とが分かった。声の強弱、発音や抑揚に気を付けるきっかけになってよかった」という感想があった。授業者が個別に助言できる機会も時間も限られていることに加えて、授業者に気軽に助言を求められない生徒もいるため、生徒同士で意見交換するのは有用な学習機会だと言える。また他人に教えることにより改めて自らの学びを確認し、自信につながるという相乗効果も期待できる。

STEP 9と10はパフォーマンステストに向けての最終的な取組である。これまでの活動を振り返りながらSTEP 6で書いたエッセイをブラッシュアップし、発表原稿を仕上げた。また、発表用のスライドを4枚程度作成することを条件に入れた。聴衆を意識して発表することを重視し、原稿のキーワードを書き出したカードのみを見ながら発表することを目指した。スライドを作成する際も聴衆を意識したスライドにするよう例を提示しながら説明した。

これまでのパフォーマンステストでは原稿を読みながら発表することも多かったが、キーワードカードを利用して、ほぼ全員が聴衆の方を向いて発表することができた。ある発表者が、授業でのペアワーク活動中のハプニングの話を組み込んで発表しており、聞いていた他の生徒はその話を聞いて笑顔になり、発表者もそれに反応した瞬間があった。プレゼンテーションでありながら双方向のやりとりが生まれ、これが伝わるということなのだ実感した。発表者は英語を苦手とする生徒であったが、振り返りの中で「実体験を交えて話したら聴衆の反応がよく、発表していて楽しかった」と前向きなコメントを残していた。また、生徒の自己評価の観点である Content、Fluency、Attitude を比較してみると、それぞれの平均点が Content4.3点、Fluency3.2点、Attitude3.6点（5点満点）であり、段階を経て原稿を仕上げることができたからか生徒は Content には自信をもてたようである。

### 3 成果と課題

成果としては大きく2点挙げられる。一つ目はこの活動に入るときにどのような道筋でパフォーマンステストまで辿りつくのかをワークシートで見通せる形で作成したため、生徒はどのような活動に取り組む、最終的に何が評価されるのかが分かり、それに向けて生徒が意欲的に活動に取り組むことができたことである。二つ目は発表に至るまで2回に分けてライティングを行ったため、第三者の意見を参考にして自分の意見を俯瞰することができたり、自分では気付かない文法ミスを教えてもらったりすることで生徒はより分かりやすい文章を発表できたことである。

一方で、活動に入る前に評価とは別にパフォーマンステストにおける自らの目標を設定することとしたが、生徒が最後までその目標を覚えていないことがあったり、漠然とした目標を立ててしまい達成できたかどうか曖昧であったりした点が課題として挙げられる。生徒の自己評価に項目として入れるなどの工夫が必要であったと考えられる。他の課題としては、より汎用性の高いワークシートと評価表の作成の必要性が挙げられる。汎用性が高ければ、生徒にとっても授業者にとってもより円滑に授業を進めることができ、生徒は自分のつまずきや成長を把握しやすくなるはずである。

### 4 「学びに向かう力」の育成について

目標達成に向けて自ら努力して取り組むことの他に、他者と協働して取り組むことが自分の力になることを実感する機会をもつことが大切だと考える。授業内の活動やパフォーマンステストなど、限られた時間の中でそのような機会を設けるためには、活動内容を精査し、枠組みを整え、継続して活動していくことで、生徒が他者から気付きを得て、学ぶ楽しさを見いだすことが大切である。また、生徒それぞれ

が主体的に取り組み、自分の力を発揮する場面を作ることも大切であると考える。

## 5 参考文献

- ・ *Heartening English Communication II*. 桐原書店. 2022
- ・ 『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 外国語編 英語編』. 文部科学省. 2018
- ・ 『学習評価の在り方 ハンドブック 高等学校編』. 国立教育政策研究所. 2019
- ・ 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校外国語）』. 国立教育政策研究所. 2021